

後生(ごしょう)の一大事を心にかけて・・・

年初来、アルジェリアでテロにより非業の死を遂げられたり、また最近では
グアムで通り魔の青年に殺されたりと、悲惨な事件が続いています。ご本人、
ご遺族にとりましてやるせない事件でありますことは言うまでもありませんが、
仏はいつも私にこうつぶやいておられるのです。「お前もいつどうなるか分から
んぞと・・・。」

仏道というのは、常に自己への問いかけであります。亡くなった方に対して
お坊さんがお経を読んで、菩提を弔うのが仏教と思っていらっしゃる方が多い
と思いますが、本当は違うのです。よく「ご冥福をお祈りします」と申します
が、亡くなった方のあの世での幸福を祈るという意味ですね。しかし私はその
ような意味でお経を読んだことは一遍もございません。それはなぜでしょうか。

どのような悲惨な亡くなり方でありましても、人が死ぬということは、身を
以ってこの世に生まれてきた者の厳粛なる真実をお示し下さっているのです。
そして、私自身がいつも問われているのです。「お前は、このようなことになっ
ても悔いなく死んでいけるか」と。自分にとって最も厭な、この世をおさらば
しなくてはならない時がいつ来るかも知れんのだよ、ということに深く気づか
して下さって、「死来たらば、死ねるようにしとかなな一」とつくづく思う次第
であります。これは、どなた様にとりましても大急ぎの問題ではないですか。

今から 500 年ほど前に活躍された蓮如上人というお坊さんは、沢山のお手紙
を書かれています、その中に何度も何度も、

「後生の一大事を心にかけて・・・」「後生たすけたまえ」と書かれています。

この「後生の一大事」ということが、そういうことではないかと私は思うの
です。この世に生まれ出てきた我々は、自らの幸福追求のために、色んなこと
をあれやこれやとしていくのは当然でありますけれども、仏は、「この世は生死
無常であるぞ」と教えてくださり、誰もかもいつどのようなご縁で命尽きるか
は全く分らんのだ、だからこそ自分を最もかわいがる道として、「自分はいつ
か死ぬんだ」という根本問題を解決しておくことが一大事であるぞ一。その安
心決定(あんじんけつじょう)の土台の上に、その人その人のこの世における務
めを果たしていく、分を尽くしていくというのが、我々人間の健全なる人生の

の歩みではないかと思えます。

それでは、その「後生の一大事」という問題の解決を図るには具体的にどうしたらよいかといいますと、一つには出家する道があります。世俗の道を棄てて禅寺等に出家して、その問題解決のために一心専念修行に励む道です。これは大変尊い道でありますけれども、家庭や仕事等々世俗のしがらみにがんじがらめに縛られている世の大半の人々には、現実的には歩めない道です。

もう一つの道は、家庭や仕事を持ちながらも、「後生の一大事を心にかけて」仏法を聞きつつ歩いていく道です。これを在家仏教といいます。私はこの道を歩んできましたし、真宗僧侶となりました今も同じであります。法然上人、親鸞聖人によって開かれましたこの道は、どなた様にも進んでいける道であります。具体的には、自分が深く悩み苦しんでいる現実問題をよすがにして、その問題解決のために、真剣にまじめに仏の話の聞きに行き、読める人は仏書を読み、また真摯なお坊さん等に相談しに行ったりし続けることです。

「この世に生まれてきたこの1回限りの人生において、自分を本当の幸せ者になりたい、どのような厭なしんどい苦しいことが身に起きてきても、それにつぶされずに進んでいけるような真の心の力の所有者になりたいと。そしていつ死が来ても、こうしてこの世に人間として生まれさせていただいて本当に有り難い人生でした、自分は天下一の幸福者ですと言いきれる人間になりたい」と、自分自身がしっかりと願を立てて道を求めていくのです。

そうして仏法を聞きつつ生活を進めていきますと、いつの間にか今まで気づかなかった世界が開けて参りまして、「ああ、こうしてこの世があること自体が、またこうしてこの世に自分が生まれてきて、今こうあること自体が本当に不思議なことだなー」と、「一切が他力としか言いようがないな」と、この相対分別の世界で我が思いに振り回されて浮き沈みしているこの私が、その分別心はからい心を超えた、他力不思議な広大な世界に私はいるんだ、いやこの私というものがそもそもそうなんだという心境が開けて参りまして、「南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏・・・」と、自然にお念仏が出てくるようになるのです。

それは、自他一切に対する合掌礼拝のおこころですね。

この娑婆の苦海におりながら、その苦しみ悩み不安をことごとく転じて、そして前に進んでいける人となることこそ、本当に幸福の道であり、真に生きていけ、真に死んでいける人となることでもあります。「後生の一大事を心にかけて」ともに聞法生活にいそしんで参りましょう。合掌 (mikinakura87@gmail.com)